



# 考えてみませんか？ もし外国人が災害にあったら？

滋賀県には約4万人の外国人が暮らしています。

日本語があまり得意ではない方や、地震がほとんどない国から来た方もいます。言葉が通じない場所で大きな災害にあった時には、どのようなことに困るのか、どのような気持ちになるのでしょうか？

今回、国際教育に長年携わってきた講師とともに、ワークショップで「**言葉が通じないと、災害時にどんなことに困るか？**」を体験し、災害時に自分たちは何が出来るかを考えます。

近年、活用が進む通訳アプリなどのツールや、誰でも使える「やさしい日本語」などについても紹介します。

※滋賀県国際協会の災害時外国人サポーターへの登録を必須とするものではありません。また、既にサポーター登録いただいている方も受講いただけます。ぜひお気軽にご参加ください。

講師

大槻 一彦 (おおつき かずひこ) 氏

国際教育研究会 Glocal net Shiga および国際理解研究会 みなみの風に所属。  
現在、京都市立桃陽総合支援学校 分教室 (京都府立病院内院内心学級) で  
理科担当教員。元JICA青年海外協力隊 (ネパール・理数科教員)。

日時

令和6年 (2024年) 3月3日 (日) 9:30-12:00

会場

草津市立市民総合交流センター  
(キラリ工草津) 503会議室  
※JR草津駅より徒歩約5分

受講料

無料

対象

災害時外国人支援に関心のある一般の方、行政職員、県内国際交流協会関係者、滋賀県国際協会災害時外国人サポーター等

定員

50人

先着順

申込み

しがネット受付サービスから

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/apply-procedure-alias/20240303-supporter>

もしくはメール本文に①お名前 (ふりがな)、②住所、③電話番号、  
④Email、⑤所属/学校、⑥ (あれば) 対応言語 (やさしい日本語含む) を記入のうえ、  
(公財) 滋賀県国際協会 [info@s-i-a.or.jp](mailto:info@s-i-a.or.jp) 宛てに送信ください。(締切: 2月29日 (木))

※申込みの際に記入いただきました個人情報については、今回の「災害時外国人サポーター養成講座」に関わる手続きにのみ使用いたします。

